あゆひ抄　二

ホ 2
4238
2

利 973 2
門 ホ 31 巻 2
東京帝国大学図書之印

あゆひ抄巻一目録

五屬中一

咏屬一

行や 冠のや 状のや 中のや 末のや
行る
行も行れ
行を

行よ
行うれ 廣のみ 若のみ
行もの

疑屬二

行う
行の行 ゆり 中の うつり 中の
行うえ行

行ふ
行のて
行うを

門 ホ 2
第 4238
巻 2

行こそ　行ゆかこそ　行こそ

行や

伏や　こうふしや　かくすふしや　ねうふしや　るふしや

行やい行　さしすせのやく　さしめせのやく

願屬三

行こや

行もう行ゆかこそ行もう

行てこう行てこそ

行もこの行こう

逃屬四

行よ

行こや

行や行　さすせのや　さぬせのや

行やこ

行やそ

行こそ

行もうこそ行ものこそ行ものこそ

行もこの行てこう行

行や

行ね

禁屬五

行か

行かこそ行こそ

ゆめこそ行こそ

行ゆん

行かこそ

行かゆめゆめ行こそ

あゆひ抄巻一同縁終

あゆひ抄巻一

北邊口授　門人　吉川彦富　井上義胤　筆受

五屬第一

咏屬

いつや　うくひやあつくへ　ほかそ屬くこ岩

四例○第一「冠のや」とは言ありていい冠又名あゆひと

うくせ言ありていいかくるのいあるめをかくすあるいかくるの

ようくへの麁をうく　かれてそこのいあるめをかくすあるいかくるの

罕歌なとふるいのこそこめてはや　とるのめてうくへの前乃

そこめはうくふこそふあるあくろふひつきもんすびりひかなる詞

ゆくるなるこそくふ　ひくへうくひくれと中ひくるの指やうく

まくくくなるひくこそくなりてきてくしれそ迎者

ことのうつぶつみてこそ身をしらるる言をもうちまもれ。さるかう
うしろ。世の人もさるかの事のすく狂ひ。ひとしれずもと
たわわゆ。上世のことかつりとつ。ものを。ものこそ。ものうるもやう
かくきこてさもてうつめも。やとるのひとことかりにわかく。
ことふからの言ものかり。上世のこと。ものを。今をこそ。中昔
よ。昔今を。大くこそ。やこそ。ほの出す。原やつ。あるとは行てるや
なこの内こそ。ものこそ。やくあれこそ。心をとこそ。又ものこのやつこと
乃ものもらめわ。大原すつ。あこそ。冠のねとをはの出て
この里をいこそ。うかはけ。冠かる。さて言ものこ
ねことりはい社てて。やこるのめて。あるも。里よいろこ
のとつのやあをこ二りてこのて。いて又。やをこ人

こう。万葉こうはこそのやをこの山をとよある例也。拾遺はも
いつかのやいつかの沼とあるこれら乃。やり里をすこあの
ぬへ。かてるを上代やこ。ことふあわはのあをはきねて
山。ほあをこ。ほのつこひるよるはうこん対よ。やをあ
へてをなるもの。はけ行てるやりもへを又拾遺こよ
をとつのやうの代使とこをかをこ。ものこを六とはこ
ものを六とこ八あをはこ。もむへりぬこわ。ひるあはこ
いつこと。日や。絶こ夫なるやはこれをこをこうもあこ
のやとあり。は撰もかつ。まやくかちはこ。拾遺こりを
波やあつ。丈のうあ。又志かこ。言まもまみをの松山。るてるや
うこ。里へるやとみを河をとこう。上世中昔よいかく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]二狀の[illegible]

[illegible]

[illegible]

○分こ中のやといふ上下さを里同じくして八下手別ア
何やうやとらへて見へし。但ゆうろれあるべからずとて
このまうしうね詞也。文にをめり
凡雑るふとやく紙やゆみらとうるかるさと林といくめくりつ
清少よの人いくるやてゑいさといくるもわつらふを八君を知る
○弁宮末乃やとらへ脚をとけうるやとやの類里いのとらへ
拾天ゆるくしやとの子を紙ゆくるかるまてるかつうるやや
後しら川乃をきれてみるれ紙をそうに人ゆるて物をやや
るやや日を乾きあつまりやうねひるやみえやるとあるる
ようるめて文ゆくやるる詞や物をやと源氏なとふ内かい
○又紙るやとらへこの拾遺うるゆ。けやり例るれて
かるるて紙るうもおく紙と説かるもおをやるいかく
あるるや里やをまるるて下にるいのと分るるや○又
板のやまのやのるらにるやと里子すをあわをまをるう
てあるるへ。すやしやホるなか
伊よ伊八若頭脚幸の引鹿や里以石をとうけるを八八乃るるあゆひを文
るるを八乃又ぞいのとを。丁鹿るをとうけるをるるいのと
るれくるいるへ。やるくは里あるいる内くく又やとるむ也
心ゆるくるるるるる分ゆるるるるるるみをるるるるる詞を中に
を者あくやるるすやるるるみるやるるるるるをかりのへ
拾交るるのしけやるるるるまるるるるるるるるるるるるるるるるん
后秋今るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜ふるまのうへさしてはぬるかぜのゆくえもなきこゝろかな

いまゝへてたちうへるこゝろかな

元

[引]き中よあるをよろこのわるを同かはやぐかりゆき

しまあるをはくはいつくんのわるくをくみらあのやまり

なり○又[このあや]といふ詞ゆゑ[ろ]の字を[さても]と書て[うれ]

何も何のれ 上何ハ若しは御装ハ清やか下何ハおゝ同 [ろ]の字を[さても]と書て[うれ]

ハ前條のハかゝ里ゆへし。仕事の清をいまゝていはへし

をちられたる京もしゆめ山中ふかくつのくもよりへこゝろ

はくゝ雅ゝうわくゝもみゆるかゝはゆきてる家ゝたりゝ

ものあふしはくゝ花乃ゝこゝろわゝうはくゝ月ゝみのゝ

給 旨羽川ゝたゝくゝ行ゝ可微はくゝ人のゝゝ後ゝみてゝまゝゝ

。[サテモ]

[中]

[ズニサテモ]

[中]

[ニサテモ]

[テモフタハカナ]

[ソウニサテモ]

[カナ]

[カナ]

[カナ

きまる咏の例こゝかるへきまてゝ人のやまを疑おるへくゝゆ
すへて中のを[illegible]を[illegible]の[illegible]いよもへ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ハ中ぬも
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

凡報のあるひとをもつてあるべきそれぬしは
[illegible]
[illegible]
[illegible]

これはつまてをくまとの人あるへし　う　を　うとあつ
[illegible]　とかろくやすへし　やとていさるのもあるへしこの作く
うろをやりへるもうしろしきもむことの法うるへし

何のう　何ハ若紫の引歌抑也　里言同　但引歌をうけるをそ　乃う

とあ法歌

扶乃ほのるるはるりてそ　歌すきかたそいてまねく神ちゆん
わりうへうりかうそはるるあるあるはのとうるるねのかたはく。
張うりすそれうるはし張うるはるるるるるはるるるるるはるるるるる

ゆくすえをひくもれていくものこひしてなるみちまうこのこ
おくかうこあをつこをひこうこ川くみまきわあこ出つかうこ（キドモスルヤウニ）
仮の仮 二例○平一初の中乃のとつの上仮ハ若狭の縫殿御ゆ
下仮ハ若狭の川魔御ゆくゆ
墨二のをまこて下仮乃下に二のとてかりのとつくへし
様こをいひ林をかこにかりぬるをとこのめの恋（名恵）高いこにて
（若）いつ乃まふりみちぬん山ゆくこまのの恋乃ちを惜こ（名恵）
てくくいあをの○のきみる書法ゆくこのこん（宮恵）恋のけゆく
（影勝）あすの川ゆきて乃墨の林こ（名恵）ゆくこ（名恵）
（月）宮なくこうこみるゆくこと乃水のきの恋ちもあすかこん（宮恵）
○平二こうこ中乃のとつ（上仮ハ縫の殿や若御装の縫殿をうけりおこ
あこりて二のとこむや下仮ハ若狭の川魔御装也）毛中の二乃恋中の二乃恋中乃ハ百このこ

一二こりもまれあり。縫のかこ乃東大有こくこいて縫
ゑをとへ仮を中に（ゆこ）いつ（ちこ）乃いつ（ちこ）乃いつ（ちこ）のいこのかこ
こむいこちこ二のりをこうこ下ま縫をへこても中のの
をゑへこめここいもゆや墨二のをまこて下仮のちト二で
とはこへ仮若をこはこ乃ハ二のを（の）こなて下に（で）をつこ
小（波扨）林こわこのこかこいつ玉のゆこ乃ゆこもう蘭
こ玉草仮のをつねこ（が）ねこ林ゆこそこれなき人乃こ語也こ乃
ようみゑきゆわつここりこ（が）こかこ衣こゑこ乃山こりかこへこ形こ
いこここれ中をつこれこの形こ寄ちこて四長を切かこうこ。
林こうわも人ここをあこてなわゆこれいつ玉を出こここりん寄多
ちる芙を仮のこうこ世中こ乃ちもとにあこゆもちつこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伺うて伺

上下ねぢ乃ちうく中の字同じく上伺ハるゝ[illegible]

里 うて[illegible]

[illegible]

[illegible]

詠と類ハ[illegible]

天の原ふりさけ[illegible]

梅の花をかの[illegible]

ウカサテモ　タノカサテモ　ウモノカサテモ

[illegible]　[illegible]　[illegible]　等見知

又[illegible]といへあ[illegible]

[illegible]

二の句[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏しゃうぢやう（上ヤウヂヤウ）やく　ちのもろこいかやもれてあやーこ　死のたこそ　ふこれ

又道者こ　乳　こかうこ　こうや　あのたけねさしきこと

仏や　仏ハ脚（仏名の事）　里　う　とつふあ乃　仏のと里こ同ここてむかこ

ほろこいこ　ほこここ　低里こ　この　魔をうけここ　同ほる　ほ

こいやここて　上をあひこてこうこ

段　こすやこわここ　山へ乃仏こきこ　仏業のこれ　ほきこあや

結　すこーやこ　ほこここ　ほこここ　ほこここ　ほこここ

又　こここ　や　火　ほ乃　や　こ

後　こやここと　乃　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ

同　ほこされこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ

カト思テ　やとやこて　つ　タノカ　や　ウカ　ん　ウアラウカ　こうん　や　ト思フカ　とや　スカ　すや　ニアシミラカ　ぬや　ウアツタフカ　かほこりや　ウモカサテモ　めやこ

おんなり物

やのやこ　ほここ乃やあり　こうこ乃こ　かこの　うちここ

中ほこを　やすーや　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ

のこ　こ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ

仏や仏　二例○中一こ　こ　中の　や　こ　上仏ハ岩阪御はの引魔　や　下仏ハ鼠のこ　こ　や

を　ハ　と　里こて　下仏こ　こ　を　ほこ

こ　こ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ

山こ　こ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ　ほこ

あこ　ひこ　こん　ほこ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ　こ

[illegible]やゐるの八[illegible]とうらあ[illegible]ぶ[illegible]有名のこくわもう
[illegible]ゐ[illegible]ゐ中昔も中[illegible]ゐるわ[illegible]のこうらあへあ[illegible]撰
あのわ別やなふこにうとあるもあわ
源氏の君若菜の柏木の袖やゐのアわとあるをうらあ[illegible]会
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

てなくなつかしけれとひかてしらむ人のうふとてはあはれや
雲風うとくなる氷のなさとふらつる海やまものこりて和カ
月やあらぬ春やむかしの春ぬ秋カ恋てのあはれ
花のちるこそやうしひ春カ春ふるひとのこゝ
ろはいかなるかこしてあるあらはなりけんにやうしわむ
ヲカ
玉くしけ戸のへるなわしら白ゆきはりしてやすてまウモノカ
金いつとはくこひあるく秋カ浅ヲカ山畑なるしむデアルデアロカ
春のうらに玉ちてはるかうひのこわるるこしやとくんルデロカ
ヨれとはりの人をあひしひやうの人の我をあてぬカ
春暮ふつをうすてはは雁を花なをさとりすなるつるカ
後かけらえもあらはまはしらまてかくしん人をあやうめぬカ

ちひやるさうひくるはなあすちまあ人カ
あくらいはらはりてはてゆんうめるあはやはるや
ナキスヤウニ成カ
ヨすをヨえとてるとをくらへドユ
マイカ　マカ　テンシカ　テナイカ　ウカ
ぬめるるぬん
テンシマステロカ　ウクルデアロカ　デアルデアロカ
らんぬるんるるん
ウモノカ　タカ　テモタカ
ヨ　ル
タノデアロカ　テンヘハウカ　テニヨロカ　タコヲロカ　テンヘメコヲロカ　ヘニ并ヒロカ
つるん　てん　りん　ようん　さん
有見ぬ物
ひと合ないおさこ　やユら　とうらあはさる例三代集ハ下かりられ行なとり
又仮撰をわくるとをてやをうむてはるあはへさ
りあはうをあはあ里てらはうをうひもなさ
拾さこのるるをこ皆はは例すわすう
伊ハ裝物ヒ　ゆうとうく　これを　伊や　とうの上代ハ装をうはるて
八代ハ後ハ　ヨ　とあるそ　中ハ　るもの　とうむ事む多

[illegible]やなれやぬまもやなくまれはこゆ宮例○第一うこゝ秋や

といへ二枝あり一よて類の所をかゝ句をつてやるもあり又すく

[illegible]るもの混かるもや何るもとやなとやわ凡中乃やこよて類

乃のこゝなるハ秋やのこゝもり但るこやとらへ所中は後拾遺集るこゝ[illegible]

二よて類所なこゝハ次の例とのこゝ又数改つもよまれこ くゞ抜きぬなとも

例なもてこゝつ面て二枝とまてこゝかゝれる事あ そこあこゝいと

あひかまて同こゝぬ例形わ ぐやを暑こる事わハるれて

やとを八と里て八面こて ふらうて とむこて ゝらあひの下に一の枝

こゝハそ枝こゝ二の枝こハ ぬとをこゝへこゝを ゆへ人れて下のこゝ合

きぬ中のやのこゝあこゝつ れるこのこゝに八ゆをあ はまこゝ人れ

ちこくハやこんとゆこて こゝつて こゝわやを であるやこ るれやを ぢやこ

とゆこへきなの

あまにこゝなのゆれのこゝの宮あわゆ後くん人のゆこゆまこゝ地じ

こゝあこゝなこて此こゝ布 あまゆこゝへこゝれとこゝ人もれき

於玉くれこゝ人きのこゝのこゝゆこゝ ゆこゝるわゆひすへこゝ於あこゝみゆこん

こゝ集こゝるこゝひかすこゝへこゝ於なすもやこゝ乃こゝ山こゝまこゝ雪こゝの

枝こゝいこゝるやまこゝれの寿ぬ ぎやまやーけこまこれとこゝ人のれき

情枝のこゝこゝ玉日わこゝ物なまわかこゝみこゝこゝるこゝやこゝまこゝ

後世あまの塩やきこゝもこゝ海こゝあこゝまこゝあこゝるこゝあこゝ

後こゝ乃川みこゝ氷こゝこゝれやいまふやこゝ川こゝ海こゝ作こゝとれ

○第二の人ハ伏やといへこれ品んやこゝこゝ山こゝわこゝ人こゝこゝ

ゐまこゝやこゝゐこゝ作こゝ[illegible]んやこゝこゝ何ゐこゝとゆこゝ人里こゝ

至りて[んやと]の例ぬ形あり。この度て

[まこれ]の[こ]ろ[ひ]くられと[ぬ]の[ま]ひ[ま]ひ[ま]ひ

かなうかなうこそあらめとて
ゆりしかん人をそなふ
行やいの
二例○才一さすゆかやいとて
の引歌抑者
ひかりかなうこそあれ
中かやの下にくらいつつ
あるといい
やくを
ハと書て下行
うやいの
書の東かやこそあれ
そこひなきかやいかく
りかもてなすこそ
改
かうつくそかもふめ
下ヨ
ぬん
ヌカヤ ウカヤ
ケシ
モノガヤ
ケシ
ケシ
ケシ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくのごとくもしかるべきことなれば今の世にはかくのごとくもしかくあんずるなるべしともいとせんかくあんずるなるべしとも
例のかくのごとくわうらひとつあの二見せわ
とゆゆしきかくやとあはれをとゝのへまことに世わ
のあやまりもまた但これをまねぶる人ねんごろ
ひとつ同じく男女もあり○中比同廣伏をうけて承の
ひとつよあるこゝろ[あり]あの文のこゝろ例をけ、ばこゝに出さるべ

伊勢物語 第[伊勢]

[昔]男[伊勢]あるいとあさ[いとあさ]いとあさ[いとあさ]といふ[ふ]所に歌詠やり
[タイ]ナリ[タイ]ナリ[タイ]ナリ

おいもとをかはかうすわもの（上有ヲヲヲ）やうやちやうをわうえうん
花の木とあらはるめともはるこのこなる時も（ド有メヲヲ）
世中をはるめるうれのおりらもの（ド有ヒヲヲ）世界といはる人法こくあ
反拾
あのうあはかるあまはうをみおもの（ド有ヒヲ）ひとのあるはるく
（トヲヤヲナヲ　ヒヲヲヲ）ともうれ　（ストモヲヲヲカヲウ）ともうれ　（ヲドモヲ有メヲヲヲ）みをも　（モヲヲヲ有ヲヲヲヲカヲウ）わかをこう　おん上手打

あるとうもうおうるうもうれもうとはるうあのうーを
ようおおわかやうふよもはぶうをてはこやうとも雪雪

（イの）もうやうの（イの）をゝかもれ（イの）もうるや（イの）三詞おかり　やおう皆
咏やおう俳ゝはうをうをゝふうをゝをておうめゝはうくゝ　やハやのおハ
おあと里すやううすてうるゝおハはるるつあうくくうをてのはる
かひうをれうゝ山うゝ咏うをうきと人ゝをうるやあとつくゝ雪ん

（上有ヲヲヲヲ

あれこひ〜今もみてけるこの山のはのはるるやまぶかくこ
ゝにあるこかひくゝ春〜のこのもの・をりをあかりたてこの人まつ山やと

行もの〜の（ゆくものゝ）

ゆくもの〜の　前條こいまきうをかこぬ河や上世の河
ゆ中山つうわかるゝくらまぶかりかるこゝ乃中山
うなつのゝとさわてもこうこ乃ゝ

まくり　**まくなし**　とゝむ河を里こ　**うゝ**と覚まこと
ねつ〜河あかり　**久隊**　よいてけ　**屬**　こゝ　**仍**
草　とゝむこあの上世あてこまうまこ乃ゝ
ゝる河乃かくゝ乃なるゝ痛乃也　里こ〜〜
ゝ乃ゝかゝ千五百番歌合　春　ゝ〜みの
わこふこをゝ乃花乃月　定家卿

これを俗人の語ゝきこゝ乃合をいまゝ和このとゝるぬ河
也と雖　如かまこゝぶこのまこうぬ河也　**仍**まこうかこ
とゝ乃　形詞　**將倫**　こくこ〜〜　**仍**まこうかこ
やゝト　あり　〇又　**形のね**　**ね**　あのゝまをとゝく上代乃御也形
補集中を　ゝ　〇とゝ　ちあれと　古今　あゆひ
つゝこゝけこ出す

跳屬

かけこゝあつこ疲る河ゝ河ゝ河ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝあゝ又こゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
あり　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

人にもうしかたへ。上世もこのわうよまた[illegible]へるとて又
詞あれてなりくらこれと。中昔よりわ侘をけるまもまれり
みを又あゆしかるれと人とこて者といふこと。又かたかもも
いにあまり。くよあの居よりわまつ〳〵もつぱら君とうわうのそ
かつまてつまさはなるなり。又父うわうをとそれうわ神社
夫とうまあとうとうう侘者をもおもいふこあつ〳〵りる。
里言なつひとおうれ世物うあてる里言もこれ有
なすしへあいう無

いうよ 行い君柳 裝の見也 里言同

うとの野のうつひかをもをうとかをもいうとうれ人をもはかりかをのぬるをこれ人侘よりたる侘

拾遺 ゆいうれたひの原のあやすゆよ紀世ゆうしかあへく

てよ 井ヨ **とよ** イヨ **るよ** 。。

すへくあつ〳〵つ事行て廬をと詞をと同けつさて
らむい常也。見いあるいとあつ〳〵へ詞のりとやう紀
てをみのこと申也ふあるうたたくかをとて旬へ載うひくれ
あるとうゆうとる。里とあるを同一。廬ある詞をいかれ
同をとうけて[illegible]見まうあてうれて[illegible]のりとうある
とくへあるとそうれ詞ふうやむしとあくけるまうあうとと
うそ。いさかをうとうへうしは仮来をきともてとてとあつる
かうとれ又廬ある詞の同をと[illegible]りとうけすてあつ〳〵うる詞上世をとくく
中昔うる侘をいうりてまれかり様人命うのつ〇ちかとうる様やるいあ詞の
同をと[illegible]をとうつうとうこと文ふくあり。そあそ
迫ところもんくうりまけよそんよるこのあく狀をうれてやうてあつる

何とあれの対句にしてこれらの類也○又[ゆく]といふ詞
あり上代の詞也歌集おもあるにこれらに
伊わ 伊い目也 [伊わ]とよめる詞よりいくばくもなくかやうに
よめり里こ[さ]とらん
こゝろをしてすまるわ寄ひとつやふたつとかきまかせて
搭 いのくにのうらとも人をいふべしあのやうに家
又つきの詞をつゝてらひ[ゆ]とつゝ
なきわかはさつるやまの山の陰こゝまこのはるれはあれはそ
[よわ]と絶るあゆひ迫きあるあくらむ事也つくハ
重之集あつさきの詞きくみえし
伊ね 伊い事の後へ里[ちまん]又[やうるれ]といふねとつゝ詞とつゝ

[去倫]といふ 秋のねハふかまさるこゝろもまさるこゝろ
こゝろひとをのあ事もあるものをかれかたくせ
春風をねのるかまりこゝ
秋 [ねよ]等見なねは
伊ゐん 伊い脚事のあや [ゐん] いゐんあまりこゝろ里 [てられ]とつゝ
とひつゝれと願ゆくあつゝる詞ちゝ
ゐるひつる詞をねのゝ上世よハあるく [ゐ]とのこゝろあ
ゝあり命をまとゝろ
まとゝいくねてもゆるしちひとゝ
春ゝくきゆるゝりてのこゝ
ズニドモ井テクレヨ [ずまあゝゐん] ズニ井テクレヨ [さゝゐん] レテクレヨ [ゐ] テクレヨ [ゐゝゐん] テミモ名ヲヨイハナアランヤベヨ [ねゝ] テクレヨ [なゝゐん] お見ないね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれぬ。[illegible]

[illegible]（行ふ事の法也）[illegible]

[illegible]

[illegible]

きつつていとゝひる河ぬ[illegible]

ひろよあゝに二の河ゆるゝ[illegible]

かゝるもゝ[illegible]のそゝ

伊勢物語二段 墨

ふうゝ[illegible]もゝ[illegible]

河ゆるゝ[illegible]とかゝれまるゝ

拾遺集

わすゝとゝかゝてゝ[illegible]

於

花のいろゝあるみゝとゝ[illegible]

このゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ賀茂集[illegible]

あゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ元捕集[illegible]

ゆゝて[illegible]ハ○林葉集[illegible]

いゝ[illegible]

ゆめゝ[illegible]

伊勢物語二段 墨

也墨

[illegible]

ちゝ[illegible]

ゆめゝ[illegible]

伊勢物語 墨

乃下にゝをあゝもゝて

新拾

ちゝ[illegible]

かゝ[illegible]

いゝ[illegible]

ゆめゝとゝハ墨[illegible]

ゆめくるまとあるものなれば・ゆめにてもまたゆめにてもあらまほしく

公こいふらむ事なく・詞ども行の全をいまこゝろのうちに今うたれて

いあてしら○伊勢大輔集に・ゆめくるまとあるものなれば・

よあり

あゆひ抄巻一終